

図書館報

2026 SUMMER No.74

SEASON



写真：中央図書館から星に願いを

ISSN 1349-3760

コラム

2

「知るほどに広がる私たちの世界
— 芭蕉の一句と読書の楽しみ」
学士課程教育機構 鈴木 道代 准教授

4

書庫の扉を開く力ギ
書庫利用講習会

7

ミニコーナー 図書館のとある日常
中央図書館 最近の企画展示

8

図書館掲示板



知るほどに広がる私たちの世界 — 芭蕉の一句と読書の楽しみ

私たちはしばしば「オリジナルとは何か」に向き合います。誰も見たことのないものを生み出すことが創造性なのか、音楽や、映像、文章の世界でもこの議論は絶えません。生成AIが身近になった今、この問いは以前にも増して考えさせられるものになっています。

そのようなことを考えるたびに、私は以前訪れた赤穂の町を思い出します。赤穂城跡にはかつての城の礎石がならび、その周辺には、城下町の片鱗が広がっていました。静かな通りを歩き、石垣を眺めるだけでも心地よい場所です。しかし、もし赤穂について何も知らなければ、「静かな歴史ある町だな」という印象で終わるでしょう。ところが、この土地の歴史を知ると、景色はまったく違って見えてきます。赤穂は塩づくりによって栄えた町です。今、塩田はありませんが、この町の繁栄を支えた人々の営みを思わずにはいられません。さらに赤穂と聞けば、多くの人は赤穂浪士を思い浮かべるでしょう。大石内蔵助をはじめとする家臣たちは、この町で暮らし、この町から江戸へ向かいました。静かな城跡を歩きながら、三百年以上前の人々もまた同じ場所に立ち、同じ風景を見ていたのだろうかと思惟しました。目の前にあるのは同じ石垣であり、同じ道です。しかし、その土地の歴史や物語を知っているかどうかで、見える世界は驚くほど違います。旅の面白さとは、

美しい景色を見る以上に、その場所に積み重なった時間を感じることにあるのかもしれない。

そして、古典を読む楽しみもまた、これとよく似ています。古典を学ぶというと、昔の言葉や知識を覚えることだと思われがちですが、本当の面白さはそこにはないと思います。古典を知ること、作品の背後にある別の作品を見たり、過去の人々との対話ができたりします。和歌には「本歌取り」という技法があります。過去の名歌を踏まえ、その表現やイメージを取り込みながら新たな作品を生み出す方法です。現代の感覚では、既存の作品に頼ることは独創性を損なうようにも思えますが、古典文学の世界では、過去の作品を深く理解し、どう変化させたかが重要でした。本歌取りの面白さは、元の作品を知る人にしか見えない個人的な密かな楽しみがあることです。一つの作品を読んでいるつもりが、その背後にもう一つの作品世界が立ち上がってくるのです。ちょうど赤穂の町並みの向こうに、塩づくりの人々や赤穂浪士の姿が見えるように。

そのことを実感させてくれるのが、松尾芭蕉の

ほととぎす啼や五尺のあやめ草
という一句です。勢いよく伸びた菖蒲草。その近くで響くホトトギスの声。初夏の爽やか

学士課程教育機構

鈴木 道代 准教授



な空気に満ちた一句です。もちろん、この句はそれだけでも十分に美しい。しかし古典を知っている人には、さらに別の世界が見えてきます。

『後鳥羽院御口伝』には、「五尺のあやめ草に水をかけたるやうに歌は詠むべし」とあります。菖蒲草に水をかけたときのように、みずみずしく勢いのある歌を詠むべきだという歌論です。芭蕉の「五尺の菖蒲草」という表現は、こうした歌学の伝統が響いています。さらに興味深いのは、『古今和歌集』の、

ほととぎす啼くや五月の菖蒲草あやめもしらぬ恋もするかな
という和歌です。ここでは、「菖蒲草（あやめぐさ）」と「あやめも知らぬ」が掛けられています。「あやめも知らぬ」とは、物事の筋道が分からないこと、恋に落ち、どうしてよいか何もかも分からず恋の沼にはまった歌い手の心情を詠んだ歌です。ところが芭蕉は、ほとんど同じ言葉を用いながら、まったく異なる世界を描き出しています。

『古今和歌集』での恋の苦悩は消え去り、代わって現れるのは初夏の清新な自然です。ほととぎすの声は恋の嘆きではなく夏の訪れを告げる響きとなり、菖蒲草は力強い生命力を感じさせます。同じ言葉を使いながら、そこに広がる世界はまるで違うのです。

ここに私は創造の本質を見ます。芭蕉は無

から新しい言葉を生み出したわけではありません。むしろ古典を深く理解し、その蓄積を受け継ぎながら、新しい景色を描き出したのです。古典を知ると世界が広がるとは、昔の知識が増えることではありません。一つの作品の向こうに、別の作品が見えるようになることなのです。言葉の奥に、かつてその言葉を用いた人々の声が聞こえるようになることです。小林秀雄は、古典を単なる知識として学ぶのではなく、自らの経験として読むことの大切さを説きました。古典とは、過去に閉じ込められた遺物ではありません。そこには、時代を超えて人間が感じ、悩み、喜んできた経験が息づいています。赤穂の城下町を歩いたとき、私は石垣の向こうに歴史を見ました。同じように芭蕉の一句を読むとき、その向こうに『古今和歌集』の歌人たちの姿を見るのです。

読書の楽しみとは、まさにそうした時間を超えた出会いなのではないでしょうか。古典を知ること、私たちの世界は二重にも三重にも豊かになっていくのです。

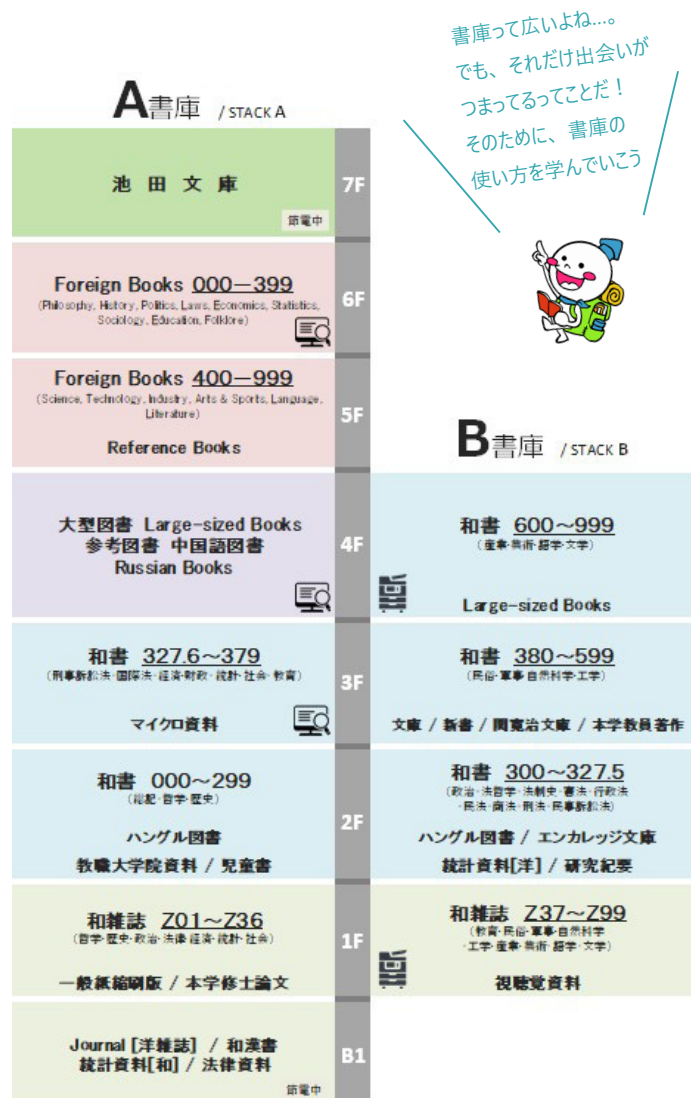
書庫の扉を開くカギ 書庫利用講習会

図書館の蔵書数は110万冊（2026年時点）。多くの資料は書庫に配架されています。これを使わないなんてもったいない！書庫に直接入るためには、入庫資格を取得する必要があります。入庫資格を取得するには、5月～12月にかけて実施される「書庫利用講習会」を受講していただきます。

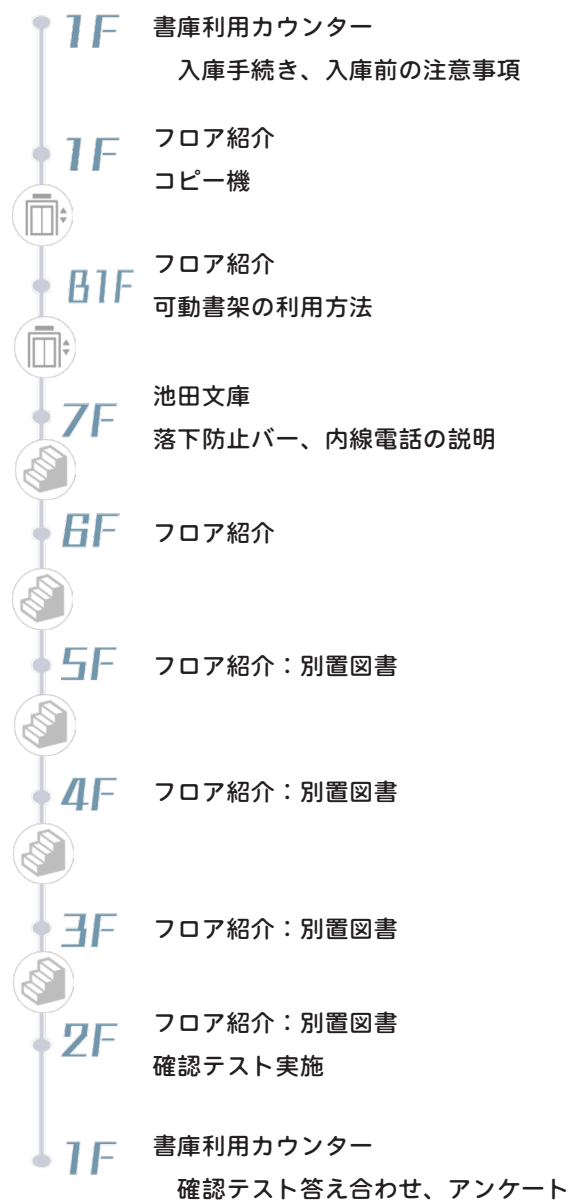
書庫なんて使い方がわからないし…入ったら迷いそう…なんて心配は、この講習会を受けて解消しましょう！

今回は、SRPメンバー4名が実際に書庫利用講習会を受講している様子をレポート。入庫資格という書庫へのカギをゲットして、新たな図書館の扉を開こう！

— 書庫マップ —



— 講習会の流れ —



書庫利用カウンター

入庫するための手続き方法や、入庫に際しての注意点を説明します。8日以上延滞料があると資格があっても入庫できませんので注意してください。

荷物がある場合はロッカーに入れて、入庫証を受け取って中に入ります。

さあ、書庫の中
を見ていこう！

段差があったり、通路が
少し狭かったりするので、
足元に気を付けて～



雑誌のバックナンバーがずらり...

書庫は背の高い書架も多いので
ステップを安全に使ってね



1F

和雑誌、新聞、修士論文などが配架されています。
A書庫 B書庫の間には、コピー機が設置されています。
書庫内でのコピーが可能です。

B 1F

和漢書や統計資料、洋雑誌などが配架されています。
書庫には可動書架を利用したフロアがあるため、それらの
利用方法を説明します。その他にも安全に利用するための
ステップの使い方などをお伝えします。



7F 池田文庫

地震などの対策として書架には落下防止バーが設置されています。書庫には同様の対策を行っているフロアが他にもあるため、利用方法を説明します。

入庫中の危機管理として、各フロアに必ず設置されている内線電話についても伝えます。これらは、安全に書庫を利用するために大事なことを、受講者にはしっかり伝えます。



非常階段で移動します
ゆっくり下りましょう

5F・6F

洋書のフロアです。書庫に配架している洋書は学術書など、より専門的な資料が配架されています。

ここでは和書と洋書のラベルの違い、洋書の参考書が配架されていることなどを説明します。

階下への移動は、非常階段を利用します。非常時には階段での移動となりますので、しっかり場所を覚えてもらいます。



書架が高い！！
ステップを使って資料を
取りましょう



ハンドルを回すときは
前後に人がいないことを
確認してね



みなさん、お疲れさまでした！
これから、たくさん書庫を
使ってくださいね！



4F

1～4FはA書庫、B書庫と2フロアとなります。

A書庫には中国語図書、ロシア語図書、参考書、大型図書等の別置図書が配架されています。高さのある書架に、大きく重さのある資料が多く配架されているため、利用には注意が必要なフロアです。

B書庫は和書が配架された可動書架となっており、B1F同様、安全に配慮しての利用方法を説明します。受講者には、実際に可動書架を動かす体験をしてもらいます。

3F

A書庫には和書、マイクロ資料が配架されています。B書庫には和書、本学教員著作、関寛治文庫、文庫、新書が配架されています。別置資料にはそれぞれ、目印となるシールやデザインが異なる請求記号ラベルが貼られています。これら開架では見ることのない目印を、実際に見てもらい配架場所を確認します。



講習会期間中は貴重な資料を特別に展示
しているよ！

2F

A書庫には和書、教職大学院資料、児童書、ハングル図書が、B書庫には和書、紀要、エンカレッジ文庫が配架されています。

ここまでで各フロアの説明、書庫の利用方法の説明がすべて終了しました。講習会の仕上げとして”書庫内から指定された図書を探す”確認テストを実施します。各自1冊、スタッフから指定された図書を探して書庫利用カウンターまで持ってきてもらいます。

では、行ってらっしゃーい！

書庫利用カウンター

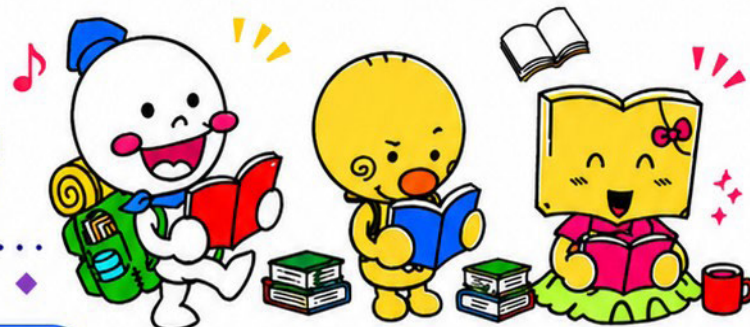
各自指定された図書を、書庫利用カウンターで提出します。スタッフが確認し間違いがなければ、入庫資格が付与された学生証を返却し講習会終了です！

今回参加していただいたSRPメンバーに感想をお聞きました。

「予想をめちゃくちゃ超える楽しさでした。」

「今までとは桁違いの規模のところに來てしまったのだなと感じ、ワクワクしました。」

図書館の とある日常



01

推し本を語ろう会



4月17日（金）、中央教育棟 SPACe・アリーナでSRP主催の「推し本を語ろう会」を開催しました。

SRPメンバー3名が『さみしい夜にはペンを持て』『手塚治虫の冒険』『銀河帝国の興亡』を紹介し、参加者との活発な質疑応答が行われました。その後は小グループでおすすめ本を紹介し合い、本を通じた交流や



新たな発見を楽しむひとときとなりました。

02

紙上健吾さんの トークイベント



5月13日（水）、「けんご@小説紹介」チャンネルの紙上健吾さんをゲストに迎え、中央図書館1階ラーニング・コモンズにてトークイベントを開催しました。会場には80名を超える多くの学生が集まりました。

紙上さんは「読書の魅力は『〇〇』に詰まっている—現代社会で本を読むべき理由—」をテーマに講演。

ご自身の野球人生から読書との出会い、そしてなぜ小説紹介をするに至ったのか、また読書の時間確保、現代社会における読書の魅力などについて語りました。



最近の企画展示

4月

開学55周年記念展覧

創造をうめぐる学生たち—昭和・平成・令和のキャンパス

本学は、1971年4月2日の創立から2026年に創立55周年を迎えました。そこで大学にまつわる図書や大学史の書かれた図書・写真集などを展示しました。



5月

ジャケッ（ツト）借りしようよ（もうどこから借もっていいよ）

ジャケットが目をはくもの、装丁が美しいものを集めました。

いつもと違う角度から見てくる本の楽しみを知ってもらえるよう展示しました。



6月

図書館で、あなたの“モヤモヤ”解決！

大学生活は、学業や進路、人間関係、生活やお金のことなど、さまざまな悩みや不安を抱えやすい時期。6月展示では、そんな悩みに寄り添い、前向きな一歩を後押ししてくれる本を紹介しました。



TOSHOKAN 図書館揭示板 KEIJIBAN

中央図書館
開館日程です

8:30~21:00

10:00~17:00

9:00~21:00

休館

7

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

書庫利用講習会のお知らせ

2026年度秋学期の「書庫利用講習会」は、9、10、11、12月に開催予定です。
中央図書館の書庫を利用する入庫資格を希望される方は、この講習会を受講してください。
一度受講すると、入庫資格は在籍期間中（卒業まで）有効です。
池田文庫をはじめ、貴重な資料と出会える機会です。ぜひ、ご参加ください。

夏休み長期貸出のお知らせ

大学の夏季休業に伴い、図書の長期貸出が始まっています。この機会にぜひ、たくさんの本に出会ってください。

学部生・別科生・短大生：2週間貸出者

7月15日（水）～8月31日（月）

教職員・大学院生・通教生：4週間貸出者

7月15日（水）～8月17日（月）

一斉返却日：2026年9月15日（火）